

千言万语

全



教は〜いふ〜案う〜を〜ひ出た〜ん
を伊能〜く〜を〜あ教〜し〜
米〜ん〜ふ〜書〜海〜の〜い〜の〜お〜く
〜の〜あ〜ふ〜海〜記〜を〜て〜書〜と〜ま
〜と〜た〜ん〜し〜あ〜あ〜し〜ふ〜あ〜ん
〜書〜と〜ん〜也〜は〜も〜あ〜と〜あ〜し〜の〜
〜あ〜の〜う〜と〜あ〜あ〜し〜と〜海〜の〜も〜あ
〜ん〜は〜海〜と〜あ〜し〜う〜い〜た〜く〜汗〜あ〜あ〜る

日付を教〜し〜
名譽の〜書〜は〜ふ〜あ〜法〜し〜
〜と〜あ〜し〜海〜記〜は〜海〜の〜伊〜あ〜あ〜ん
〜と〜あ〜し〜海〜記〜の〜法〜ら〜ん〜
〜と〜あ〜し〜海〜記〜は〜海〜の〜伊〜あ〜あ〜ん
〜と〜あ〜し〜海〜記〜は〜海〜の〜伊〜あ〜あ〜ん
〜と〜あ〜し〜海〜記〜は〜海〜の〜伊〜あ〜あ〜ん
〜と〜あ〜し〜海〜記〜は〜海〜の〜伊〜あ〜あ〜ん
〜と〜あ〜し〜海〜記〜は〜海〜の〜伊〜あ〜あ〜ん
〜と〜あ〜し〜海〜記〜は〜海〜の〜伊〜あ〜あ〜ん
〜と〜あ〜し〜海〜記〜は〜海〜の〜伊〜あ〜あ〜ん

海記

海記

子名乃紙目録

兼題書躰 一丁ウ

勅進短冊はくも振 ニ丁ウ 同他者名まのり 日

日小札のり 日

詠草書躰 三丁才

登詠草圖 三丁ウ 折詠草圖 日上

懐紙書躰 四丁才

一首懐紙圖 四丁ウ 懐紙まら振 五丁ウ

懐紙裏書のもの 六丁才 摺紙の裁振 七丁ウ

懐紙並振のもの 七丁才 懐紙書同書のもの 七丁ウ

懐紙字配のもの 日上 神宗懐紙のもの 九丁才

位署書のもの 九丁ウ 佳言の懐紙端化 十丁才

佛寺遊覧の懐紙乃事 十丁ウ 懐紙かさぬ振 十一丁才

同輩の會懐紙乃事 十一丁ウ 下輩の會懐紙乃事 日

ま捨の巻辨 五丁才

詩懐巻之辨 五丁才

曰はくまやう 五丁才

同かまのいり目 五丁才

二首懐巻之辨 五丁才

五首懐巻之辨 六丁才

十首懐巻之辨 七丁才

短冊書辨 三丁才

一字題短冊之辨 三丁才

短冊に姓名とま事 五丁才

かま句題短冊之辨 日

短冊に詞書とま事 日

短冊の肩に注書とま事 日

款合の短冊之辨 五丁才

女房短冊之辨 日

数句短冊之辨 日

短冊之辨 日

附尾

懐紙書振の後 六丁才

不系の懐紙至振の後 日

短冊之振の後 三丁才

短冊上句下句の片ふまの字をわく後 日

款合の図 三丁才

かま文と關字の後 五丁才

僧徒の懐巻之辨 五丁才

女房懐巻之辨 十四丁才

曰二首懐巻之辨 十五丁才

三首懐紙之辨 七丁才

七首懐巻之辨 十九丁才

二十首懐紙端他 日二十首 日五十首 日百首 三丁才

二字題三字題四字題短冊之辨 日

かま題短冊之辨 日

かま題ま字のり 廿四丁才

詞書多まのり 廿五丁才

卦かけ短冊之辨 日

短冊の上の字わく 廿六丁才

代巻の短冊のり 廿六丁才

詩を短冊にま事 廿七丁才

佳節懐紙端他の後 同

手あしく自まふと云後 日

懐紙端他真字のり 日

名紙短冊すはの後 日

名簿の図 三丁才

ふも乃あふも目錄終

千巻のあふ

美濃 中臣親満 著

歌乃懐紙と云るは。清和乃御時よりありと。和歌物語より
いひくは。定のちうび。短冊と云名ハ日本紀は始てを。歌書一
あとい枕草紙台記をよみあれど。今の振と同し死やちうび。狭衣
片後各小教 ちうび今搦。後宇多院乃御製衣のちをよみ一宸翰乃
短冊ぞせよせし。彼御世をよみ今たぬくひひろまり
らん。中務卿尊良乃清子乃御息所乃家乃會よ歌を短冊
ふかきよ。あとい。又の等持院將軍尊氏の褒貶の短冊は
夏。太平記ふらんをせん。其項もや盛ふせふもよませし

心をいざぬく能はつて書法とわづらひ定まり有る。
 歌とむ人乃ちあらぐえあるは事ごとくあり。かたは
 年頃あはれ見むらう。古人乃ち真蹟をむとらぬ。或
 或ハ縣居翁より後にはむらう先達乃ちむらうを
 かいちむらう。目やをむらうかためふ類をむらう。
 その子めむらうむらうむらうむらうむらう。

○兼題書體

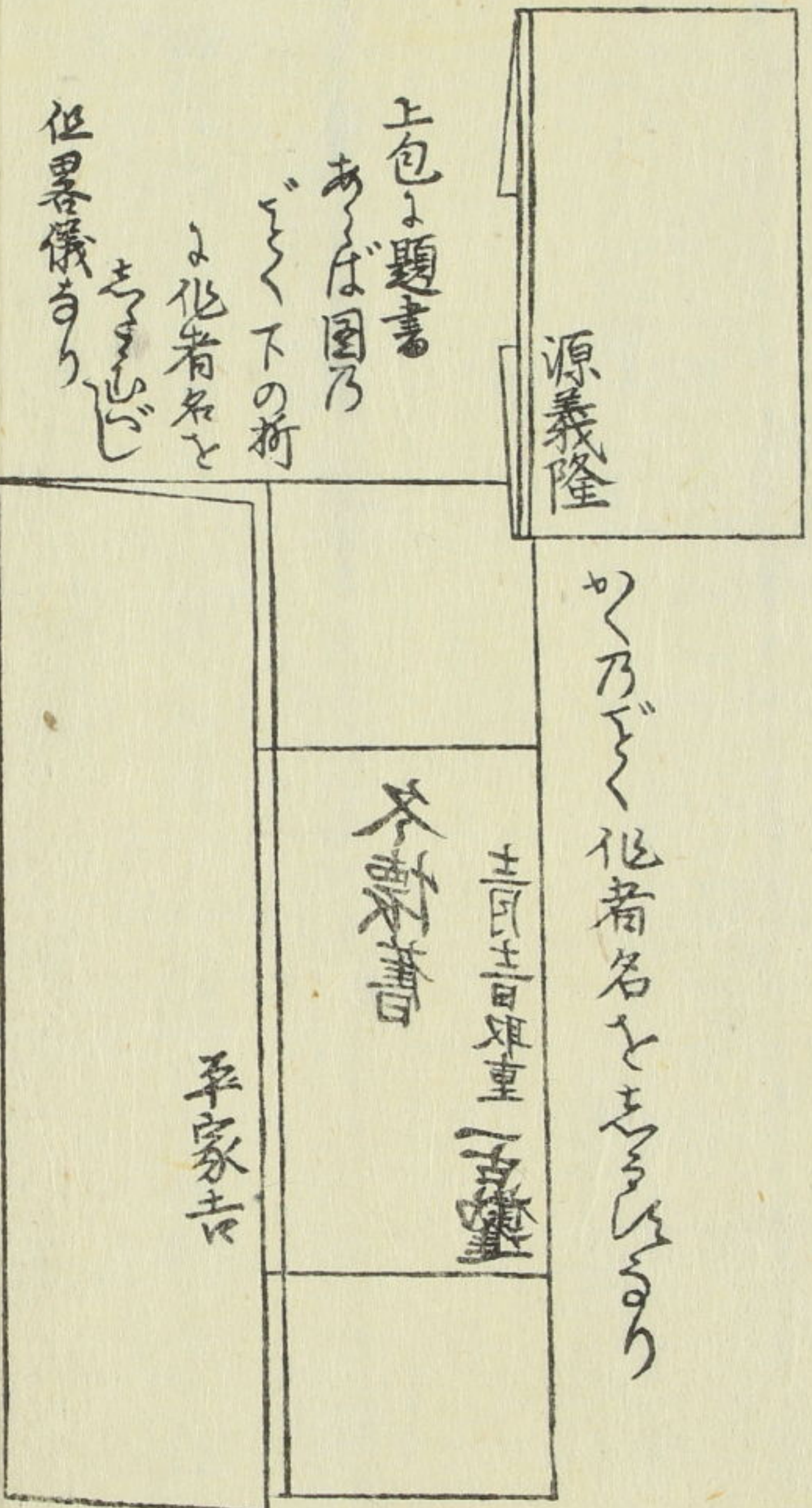
凡和歌會を催さんとて。兼題を絶えむらうむらうむらう。その題乃ち書法五首十首廿首おぐハ短冊一枚ハ二行又ハ
 三行おとむらうむらうむらう。廿首むらう多きハ短冊お及むらう
 らり。短冊ハ三行ハ折る。二折の内お題を書よ。一折お左
 右お分る會日と亭主乃名を書也。

| | |
|--|----------------------------|
| <p>一首題ハ折目ハ むらうむらうむらう</p> | <p>本三日 基定亭</p> |
| <p>二首題ハ二行ハ おぐ一頭乃 むらうむらう</p> | <p>本十六日 行之亭</p> |
| <p>又一折ハ二題ハ むらうむらう</p> | <p>本五日 博行亭</p> |
| <p>三首ハ三行ハおぐ 五首七首十首廿首 おぐ一紙むらう</p> | <p>本十日 本十日 本十日</p> |

三首ハ三行ハおぐ

二

右乃如く書く。三の折。短冊は遠く。杉原もく上包
 をくく出ひ。近世勸進乃短冊上包。何懐舊何
 月某日取重をくく。更尔無稽乃至。上包
 と白紙をくく出ると。他者も名と書い。づ。たあり。



又鳥子よ。杉原もく。短冊三折の寸法。たり。短冊もく。題と書あり。

ま上方より題を
 出さるる
 外山家出題
 ままじあり

私題
 寄松祝
 父家一書
 何月何日
 宗近勸進

○詠草書躰

詠草ハ豎詠草本儀なり。料紙ハ杉原を用括べし。ぎ、
 折詠草ハ。三折四折乃二式あり。大う。四折を用
 ぬ。書法ハ豎詠草二行書。折詠草二行七字。ま
 づ。或云折詠草ハ二枚。一枚ハ草案。一枚ハ
 用ひ。一枚ハ宗匠。奉り。宗匠合點。後

小書

三

蘇壽遠祝

和歌

伊賀守半室

あれのこぼれ人徳
困よりほこりてせ
成まけし死由
まゝら

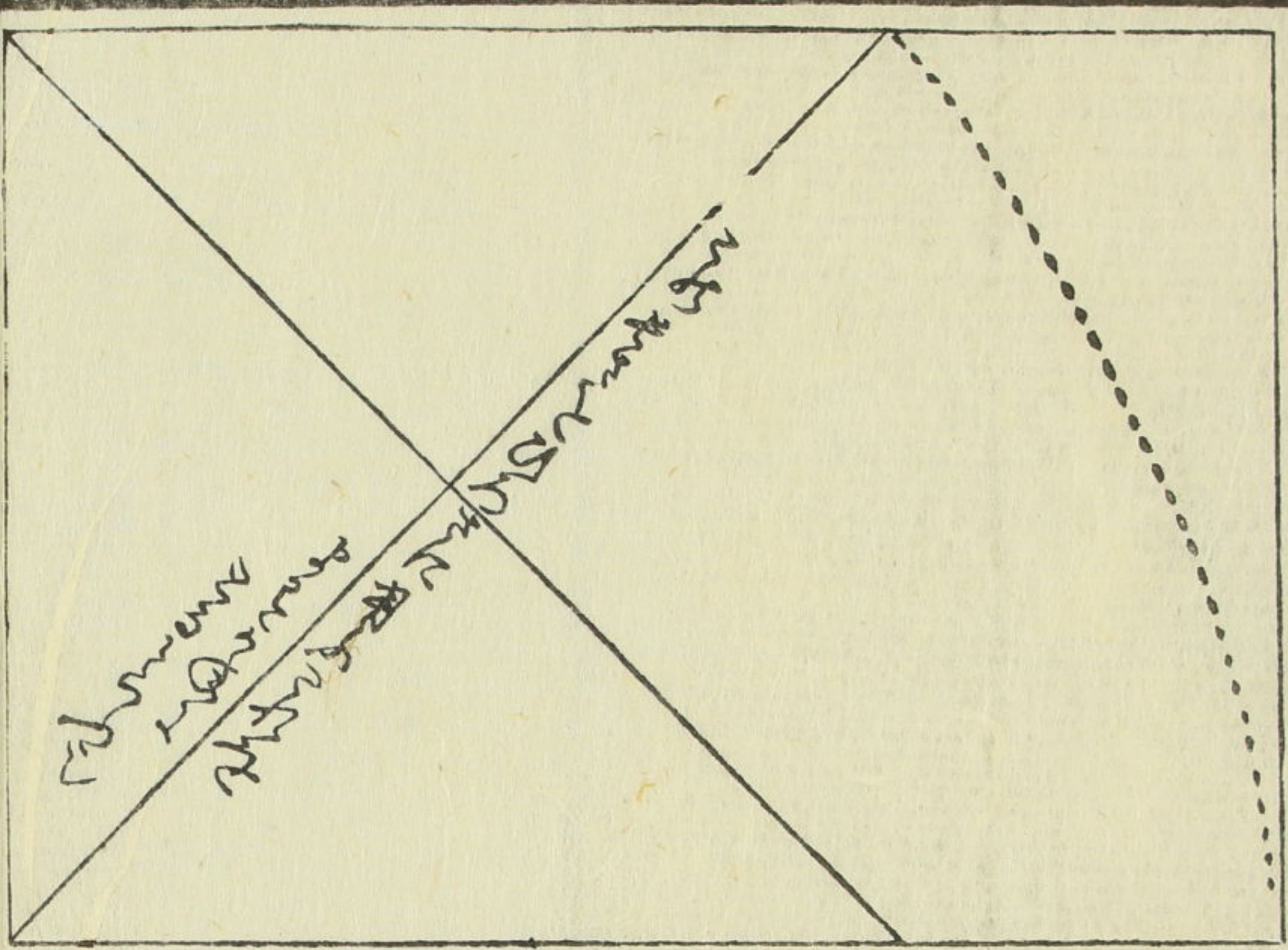
三寸四分

まゝら

檀紙をまゝら守ま
たら。四ひたまゝら綴
る。

まゝらび年月簿
漬師の名と裏ま
ら

年月日 何亭
講師何
漬師何

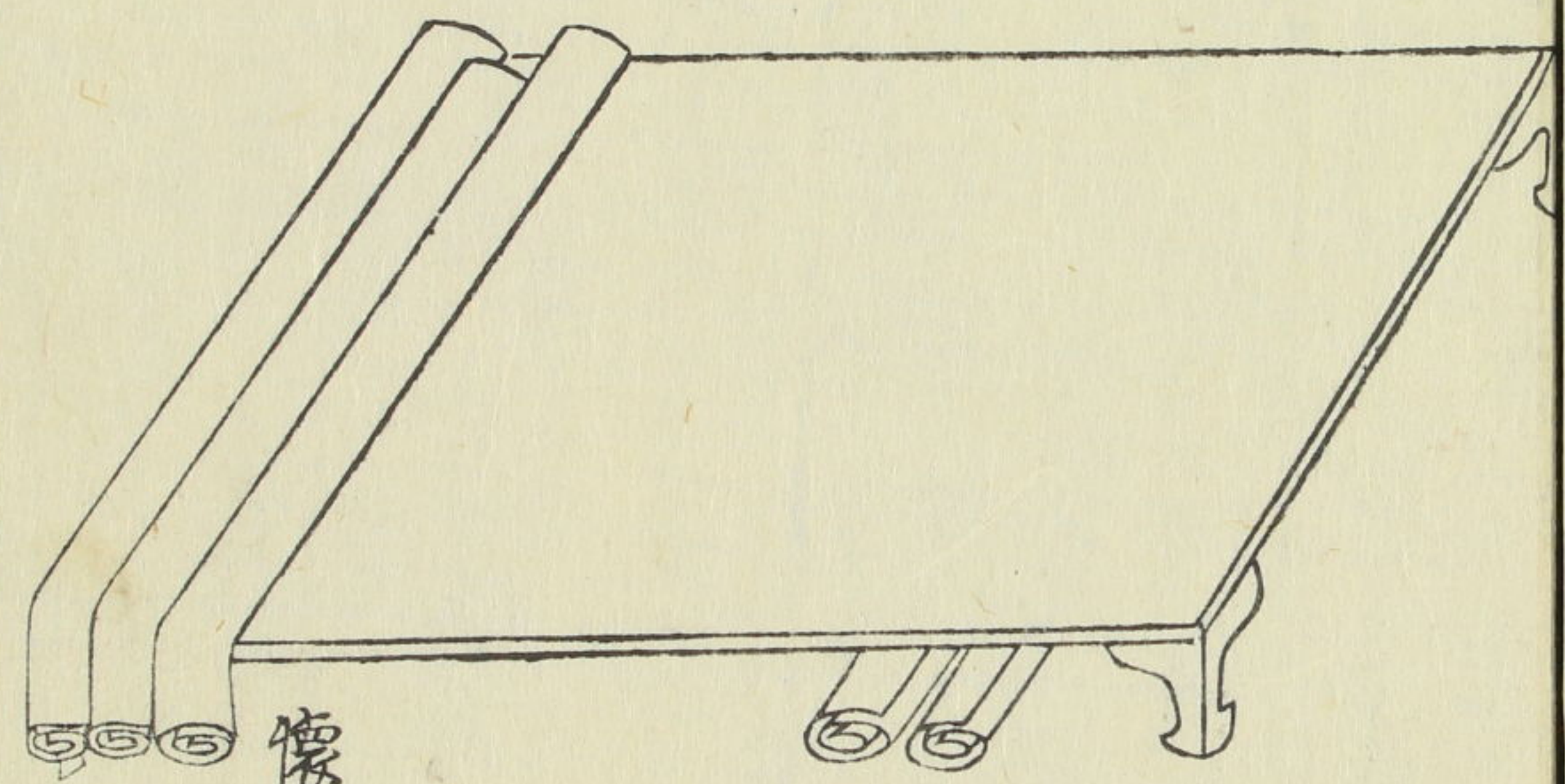


大なる櫃線のきまへん四寸許ある。
 是をさへふ圓のまゝにして線の
 ひらきふはまじり。

線のきまへん一尺寸五寸よりた。た
 年侍のすはさる。位階のあはる
 サ一びくせくちるべし。

糸糸

文庫の左へまゝ
 文庫の右へまゝ
 文庫の中央へまゝ



不手の懐紙のり
 文庫のり
 あくび

懐紙のりらと掌かど
 折りし文庫のり
 あくび

○季同とやいふは、事ごとの位階ふよりくまはる式あり。たと
 四位中羽ふく余の時。五位よりくま侍従の季同ふ及ぶべ
 流をよきと書よ。五位より季同とくべ。或は真言の
 位よりくま貴人より懐帝と出さるるあはるの貴人か
 余と同くくまはる。好く事ごと同好する。こまはるべ
 を塵集くことたり。

○字配ハ九字十字九字十字と配るべ。権北は病家
 表月も等の字をいふべ。こりけ末の字をいふ
 あり。たふかふさくらさか。たふけやあはる。あはるく
 ひと。あまのほさくらけ。軒のさくら。あやちりさる
 る。のれ。三字にさか。これさけ。機も那。柳柳
 乃美也。月美也。又月也。昔南也。さく書べ。この
 子宣亂御記よこさる。文毎二年正月廿九。昔裏月次
 所舎の時の懐帝もあはる。昔もあはる。こりさる。こりさる
 自はふ。この字配今日各不^ス然^モ。又末三文字事不^ス加^ス言^ス名^ス可^スあ

春日同詠竹不改色

任秋

権大納言藤原胤

くまはるくまはる
 くまの春もくまはる
 那乃のまのまはる
 花もくまはる

三文字。依人不然。今日の春も
 吳多那とまはる。まはる。

このまはるのまはる
 あり。堅勢もまはる。

○真名同姓のらふ姓を
かぐ。位階も進めるは
幸宗あるらふ。實務の
懐紙のさくまはじ。

かぐと名いふと名と
かぐと名いふと名と
かぐと名いふと名と
かぐと名いふと名と

○非茶法樂ハ幸同と名
位署書あり非字の關
字あり。その外何れも
端の或ある。位官
兼あり申す時。位姓と
かぐと名いふと名と

從位守攝頭藤朝

從位守兼源朝

康朝 大朝 平朝

さくまはじ

○位署書式ハ官位相布
小陰くおあり略してい
おあり官位とせ。位署
く官甲々ハ位守官
とせ。官さく位甲ハ

手紙の巻

初春同詠祝言

等

中書大夫實衡

いくと名いふと名と
ぬふと名いふと名と
緑哉と名いふと名と
紅と名いふと名と

元日侍材本影前同詠花

和歌

侍從從位兼攝守源朝清

春日侍天満宮影前同詠梅

多年友伴詞

出羽守從位藤朝之

官位相當

| | | | |
|-----------------------|-----------------------------|-----------------|------------------------------|
| 右近衛中將從四位下 | 右少將正五位下 | 右衛門佐從五位上 | 大膳 <small>右京</small> 修理亮從五位下 |
| 左衛門督 | 彈正少弼 | 左兵衛佐 | 侍從三殿大炊典藥頭 |
| 右兵衛督 | 刑部大輔 | 右兵衛佐 | 式大藏官治民兵部少輔 |
| 彈正大弼 | 式部大輔 | 玄蕃縫殿 | 上野上総常陸介 豊後守 |
| 大膳大夫 | 大藏大輔 | 三計内匠 | 山城 旗津尾張 三河遠江駿河 |
| 右京大夫 | 宮内大輔 | 主稅兵庫 | 甲斐相模 美濃下野信乃出羽加賀 |
| 修理大夫 | 治部大輔 | 内藏木二 | 越中越後丹波但馬 因幡伯耆出雲 |
| 民部大輔 | 兵部大輔 | 大學頭 | 美作備前備中備後安藝周防紀伊 |
| 中務大輔正五位上 | 中務大輔 | 阿波讚岐伊與筑前筑後肥前豊前 | |
| 大和河内伊勢武藏下総近江陸奥越前播磨肥後守 | 造酒 <small>東市正内膳正六位上</small> | | |
| 位高 從三位守左近衛中將 | 從四位下守彈正少弼 | 主水正安房若狹能登佐度丹後 | |
| 官早 從五位下守主水正 | 從五位下守安房守 | 石見長門土佐日向大隅薩摩守 | |
| 官高 左京大夫行從五位下 | 大和守行從五位下 | 正六位下 主膳正從六位上 和泉 | |
| 位早 左兵衛佐行從五位下 | 大學頭行從五位下 | 伊賀志摩伊豆飛彈隱岐淡路 | |
| | | 壹岐對馬守從六位下 | |

官行位とつくるなり。ちふしうはくもの官位おる事なり。ばら
 ちふしうをさへく位とつくるなり。

右の格もく守行の字と加ふることを考へべし
 あかしくいふは。今よりいふは。又後をさへくは。ちふしう

○元日 人日 上巳

端午 手陽るもの

佳節 八日月とまゝ祝

元日詠試書

私歌

さくさくさくさくさくさく
 早夕十五夜なるもの
 あまの

或は十五夜を
 秋夕とるかきなり。
 又十五夜と打ちあ
 かくるるなり。

秋夜詠月光無隈

私歌

平時房

星夕同詠半女言志

私歌

源貞辰

春のつら

○佛寺遊覧の懐紙ハ

非茶より格別うらうら。

關守のうら位置きつるに及ぶ。

幸岡ハ余の人のあふ

よふ。又僅佛日

涅槃の舎西の上人忌日を。

臨時ふくむばうら

あふ。

冬日遊清光院詠梅花

和歌

石上清岡

秋日遊海禪寺同詠紅葉

秋深歌

中長親和

○幸岡とやうあふ。たふの林も裏の余のよふに幸岡とやう。

春日詠水衣紫久

和詩

兵部卿在親王

春日同詠水衣紫久

和歌

左大臣藤基親

秋のつら
秋のつら
この格をこく取をこく

春のつら

十一

○まゝの園茶のまゝの園とていふ。半園のけしむの娘のやうに。

詠梅交和芳

信賴

久松信輔

花を心まかりわが
に涙をよそひくも
わがうきをえり
わらふ

或は園茶のまゝの園のまゝの園とていふ。半園のけしむの娘のやうに。

○まゝの園茶のまゝの園とていふ。半園のけしむの娘のやうに。

詠梅交和芳

信賴

信輔

○書捨とらふは遠形ある
懐希さう。我がわらう。
又い下のまゝの園とていふ。
まゝの園とていふ。半園のけしむの娘のやうに。
わがうきをえり。
わらふ。

思新樹

為春

まゝの園とていふ。半園のけしむの娘のやうに。
わがうきをえり。
わらふ。

まゝの園とていふ。

三

○詩懷紙瑞作名書等の法ハ。尋懷帝れどく。絶句ハ之ハ
三ノハふまゝ。律ハ之ハ又字ふまゝ。むろり。漢ハ
之ハ三紙ふまゝ。又今之ハ。

賦耕於東郊各台字

詩探得翁
字

權中納言元長

天氣降私春雨濃平

夏局賦聖恩單草木

應製表首 以榮為韻

攝政後信藤原朝日惠經

我后聖恩人穢不遍單

草木萬方平致不冉

奏金芝色者下平用

瑞折榮太昊氏風傳

盛德治陽懸月樂長生

微臣扶老侍斯席悅美

今宵雅頌聲

白髮翁

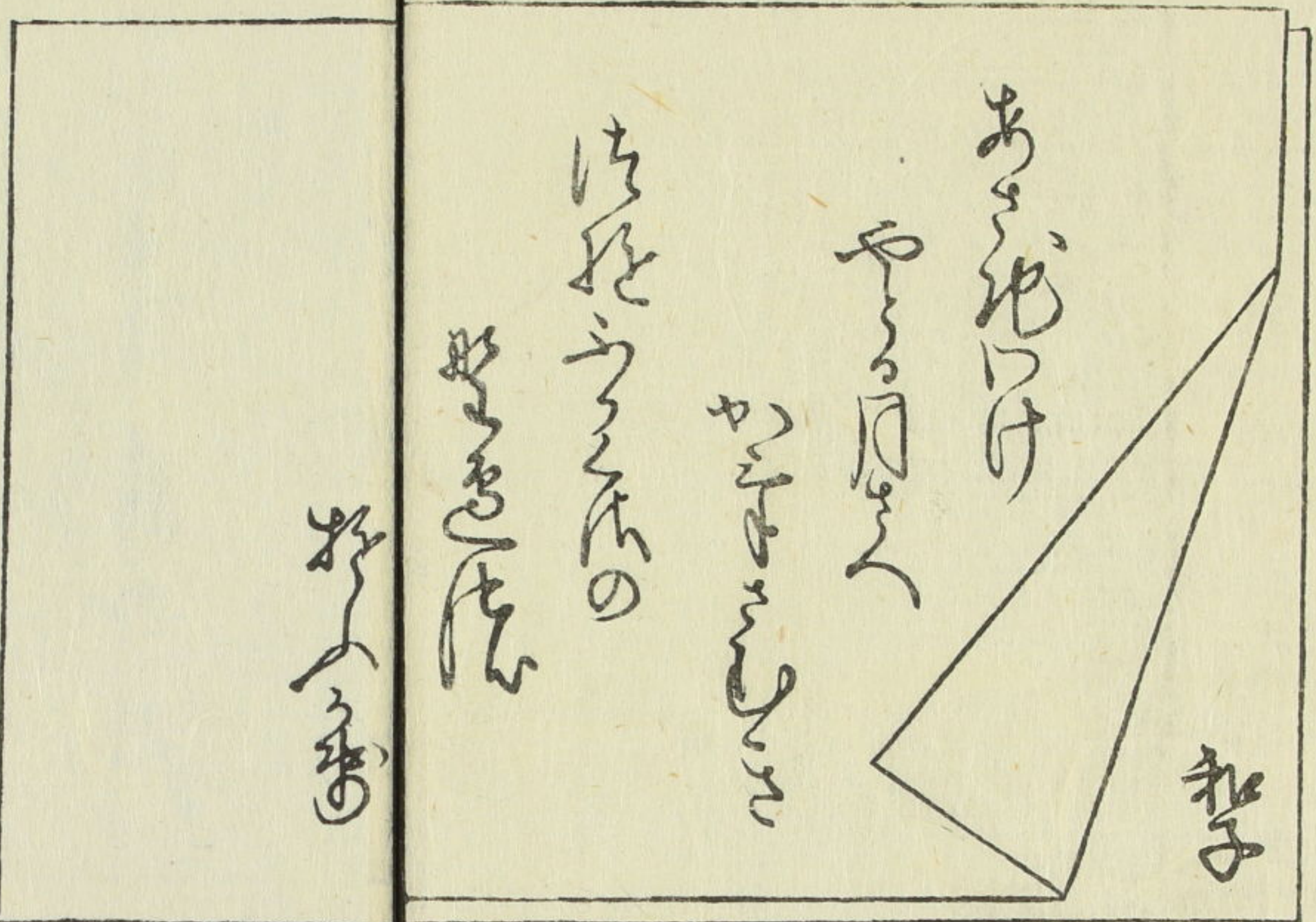
田水蘸識年豐勸農

只在東郊舍耒耜將來

子名

十四

○女房懐紙の書きまじり。右の圖の如く書きまじり。右の圖の如く書きまじり。右の圖の如く書きまじり。



おのりまの
おのりまの
おのりまの
おのりまの
おのりまの

おのりまの
おのりまの
おのりまの
おのりまの

女房懐紙の圖の如くはたうらまの書きまじり。右の圖の如く書きまじり。右の圖の如く書きまじり。



○二首懐紙

〇二首懐紙
〇二首懐紙
〇二首懐紙
〇二首懐紙

冬月詠二首秋歌

正二位藤原資茂

冬色

冬うねのこころりみい
まの後のそはれこのる
いろもはゆる

冬雨

ぬれくこ音ととる種を
あまかゆわらけはるき

夕暮のあけ

詠二首とある

〇二首懐紙

〇二首懐紙

〇二首懐紙

二首とある

〇二首懐紙

詠五日丹子小

秋歌

行中納言資茂

まひなつけくもきぬ
たさくらのさのまひ
つくよぬぬらき

懐舊

かこくありれはるい
あはれなきはるい
まのころな

冬暮崇徳院御影堂同

詠二首秋歌 各五言
行中納言

後位正行名辨藤原朝資康

菊

けからくや枝のいらあ
ひ久のころはあ月の
新をかりぬ

懐舊

かよはくのおこころら
いよくよのふくれ
けぬらき

ふきの

十七

秋月詠之有佳歌

権中納言藤原實隆

芙蓉

了月と云くれぬ月さか
い持しつはくはるる人あま
りこらありや

情状

かきとくしつをささるる
や子持しつはるる人あま
秋乃くれ部

園鶴

何事しつはけりりまあひ
そりしつはの秋ささるる
とあるあましよ

詠之有和歌

権中納言實隆

花

花ささるるきりりけり
のふささるる人あまの
をささるるあま

花下送日

名持しつはけりりまあひ
本ささるるあまの秋さ
かきりあましよ

花下送日

あまの秋のささるる人あ
まの秋のささるるあま
けさ乃秋ささるる

五首集の

〇五首集の

二首集

きり

並装紙に青
懐紙に三行定也。
二首之青ハ三行
書き。五首之青ハ
一紙ハ三行づき。
十首より上の紙と
は、ぐりとも。毛
紙に後より

詠五首和歌

正二位資枝

柳

竹のひめはさくらも
そのやまのあけのさくら
都のさくら

橋

さくらさくら水の一木
庭はらうとさかたりの
かお架さくらあか

松衣道

さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら

廣

年々舞のさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら

五首集の

十九

七言律詩

七言律詩
二首

秋園詠七首佳秋

右近衛權將藤原基壽

七夕月

秋月夜如雪
今夕の月如雪
元一

七夕河

七夕の河
あさけ河
又

七夕草

七夕の草
花

七夕鳥

七夕鳥

七夕の鳥
夜

七夕夜

七夕の夜
今

七夕別

七夕の別
心

七夕祝

七夕の祝
早

子集の巻

廿

行六二階きん機も改りて法をうて
室町將軍ふはくしん一人あり。

この陰威が予の冠をうて
しを奥のかくより脚の傍の
まじりしそはちまひし

白河園の瓦と。

あやぶあのももむら
繕ひかひの
一たりき。

ひらりね我ふまひ
きりぬのよひまひ
あつたのさう

浦松

浦松を浦りりかた

まじりしそはちまひし
あやぶあのももむら

思世筆

ねひらかた地法は
しれたるまじりしそは

とあふりさむ

抄紙

さをしりの君と新く

とるぬあはれしそは
抄紙のまじりしそは

○十首以上十首二十首三十首百首
百首。三首二首小首とむ。世季同
官姓ありあふりしそは。

詠二十首私歌

堯孝

春

詠五十首私歌

榮雅

春十首
初春

くは春の文とくはあはれ
小枝のくはくはあはれ

あやぶの紙

詠二十首私歌

堯惠

初春

詠百首私歌

釋阿

春十首
三春

○短冊書躰

言塵集より。當座乃探題おの款ハ短冊なるもどげあふがらよ
 式あるべし。又短冊ハ我名を具躰草乃字ハ
 書ちと尾籠乃事なり。實名とハ見履ととて振よすべし
 かくべしとす。又飛鳥井宋世自筆狀畠山改長ハ贈る交あり短冊す
 法の事。廣サ一寸八分。長サ一尺一寸五分なり。但長サふた
 ち聊二分三分とて井くる。やびり。廣サハそのお違不
 てもゆ也。半短冊とて定れる寸法なり。時ハ隨く有る
 事ハ凡見よと振よす。海法ハとあり。世間ハ為世形短冊す
 法。又ハ御製短冊。親王掾家各別なり。と記す。とせん

あまごころ。大の。後人臆説ふ。其證ハ御製

短冊堅一尺一寸八分幅二寸とあり。然るも後宇多院宸翰

分八寸一

還山

世をいふことこのわくのこともすまひ
 かくらひらひらと名するのあり

かくらひら。其外あまごころあるべし。更ハ定れる寸法ある
 ふあまごころ。猶くことハ別なりとす。

○一字題

墨法

半字
下り

蕨

春はつひらひらと名するのあり
 ばつひらひらと名するのあり

は元後目

青雲ハ上

紫雲ハ下なり

あり上ハ指し
 りとあり

○二字題 三字題やぐら一行はかゝるごとく一書あり

尋花

終日よたたらしくけしこ忠はく
ぬれくや也の着よる後元宇夜

夕春雨

暮るものさけいも好む夕暮
舟の志はくのきるといふを志

○四字題ハ二行ふつゝあり

老後

迷懐

かゝるごとく友もれかまおしくこ
ひりりむくと控みふふ 地河

ちんく四字の五字の題といふは二行ふつゝ。たゞし熟字と
いふは二行ふつゝ

栲

五月雨

晴

春風お

氷解

○短冊は姓名すまやくとあり。竹内彈正大弼後治五辻富仲の
例とて出ーたまはつゝにきまらん。

緒絶橋

我があしひのくも糸一白玉の
緒絶の橋を身にしらむらん 源徳

雪中鶯

はるりしききのねらの竹む
さけくささめのおのこひと 源仲

○四字題ハ二行一書あり

ほろけ

哀ひひあつたつたおのひも
ほろけとらしきとつとつ 真

○四字句題ハ二行一書あり

宮さま

うらうらうらやの月とてんてめ
月をさくおのひ乃新はふらん 政信

女房の名と裏のつくり

和子

○代筆の短冊は、面のどろく。表は他者の名とつくり。裏は名とつくり

他者の名

定親書

○發句短冊は一行のみ書とす

新樹

紅のさく深なるやまふと

勝仁

○詩とが卦がけ短冊のどろくもつくり

初花

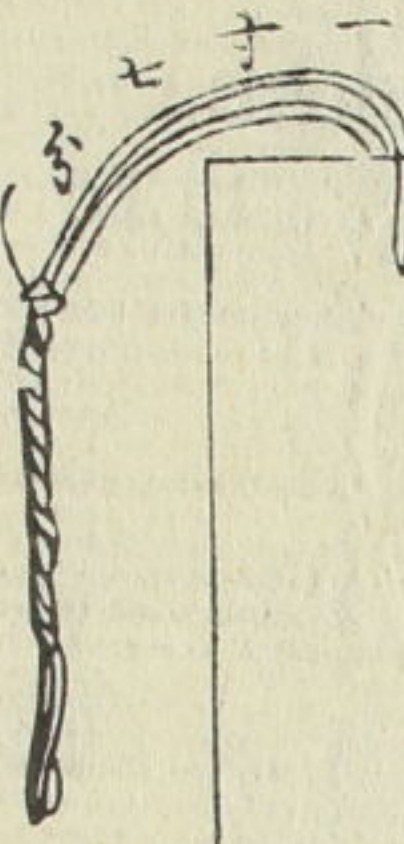
時至園林草木濃賞心賞如洛陽中
愛看雅帯加吟興連夜春風一朶紅長維

○短冊とらやうの圖のどろく裏もあるべし

は間指一のりぬべし

年月日

何亭



水引とく綴り

と八雲御抄ふも。六月と賞院せらるるが故に
かきとほひしあつて
佳その儀は落札
の儀に今も

不系乃人此儀傳へる甚は下よき了と或々々の仰
ありしが。清輔朝臣の説とく。八雲御抄ふ載られ
若障りありと。不系者ハ一紙とく封じし。
そ上の或封。我ハ片名をとりとく

魚菰雜疾よ情も多るる。その中一と。彼乃よ
いながら存り。たふ具したるを。是非ふれよ。妙
少海殿ら。定ておの性。うきんたるふとく。歌
乃上手南り。小倉乃山たり。百人乃人と給ふよ

かきとく。さく百首と我書給ひしあり。その源は能
いろ初も多るるべけれど。馮まればるる。大性たす
親満
抄
を家々の百人の心を。うきなり。あやまりなり。小倉を紙よ
他者くあ。そのく他者の名とく。考家々なり。其
世々の寺の家よ。まねを奉をすれ。歌のうら。か
ちびたれと。よくさるる。あはれ。す。その
よ。これよと。夢む家のおのり。世々
ど。歌を奉をせられ。た。ま。げ。何。も。な。り。
定家の子孫り。為。家。の。人。ま。ね。り。し。し。よ。
ある人我給ふよ。あ。ら。な。い。な。り。ま。ふ。歌。の。し。
とありし。ま。ら。な。い。ま。ら。な。い。ま。ら。な。い。ま。ら。な。い。

御抄の御抄

短冊書よ。上句下句は顔よ。文字は並べるの。このころは
 とも。和歌物語よ。このころは。また遠院宮遠院宮
 持明院基孝卿との短冊よ。

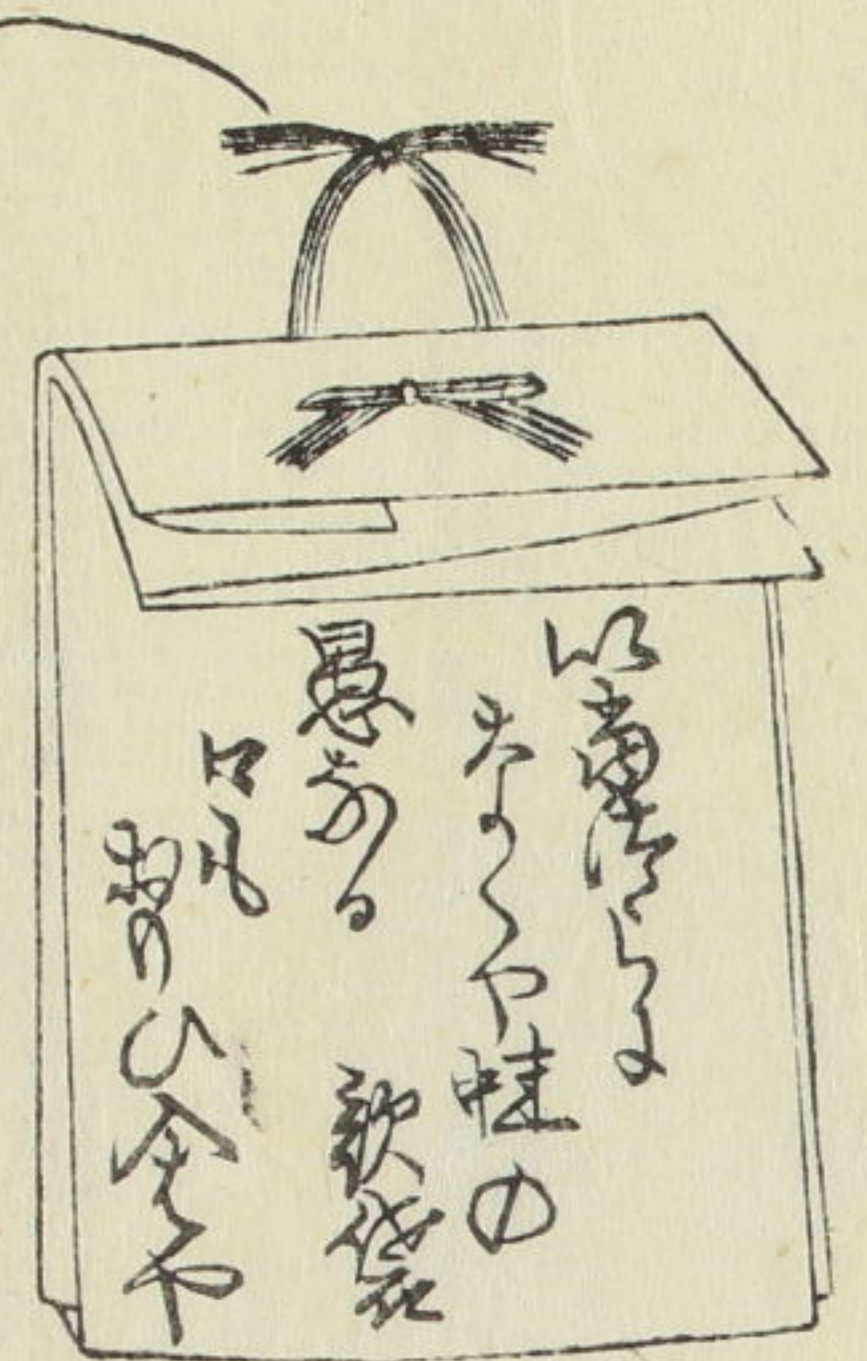
不逢意
 年廻りよ。はなはた中よ。著るん
 ね。このころは。ちよ。たよ。著るん

旅意
 羊籠う。けの野をた。おるん
 後。このころは。神よ。このころは。基孝

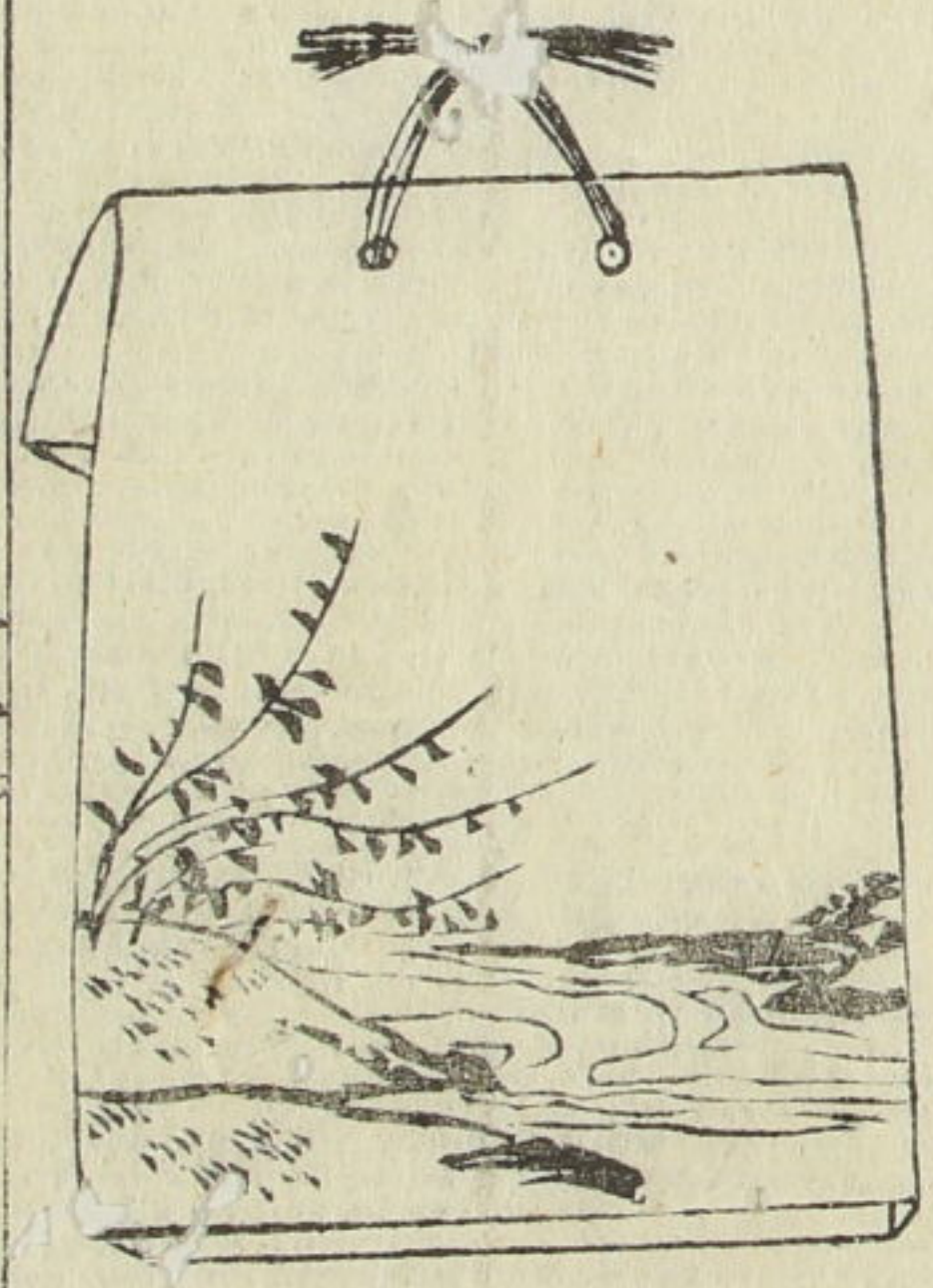
君好く。このころは。例よ。おるん。た。おるん
 事よ。このころは。おるん。た。おるん

次袋の。後水尾院は。清和物語よ。おるん。た。おるん
 名。このころは。江師江師の。傳錦よ。このころは。秋袋は。おるん。た。おるん
 心。このころは。おるん。た。おるん

種紙つ。このころは。このころは。表よ。秋よ。おるん
 裏よ。このころは。おるん。た。おるん
 このころは。おるん。た。おるん
 愚か。このころは。おるん。た。おるん
 おるん。このころは。おるん。た。おるん



柱よ。このころは。おるん。た。おるん
 心よ。このころは。おるん。た。おるん



このころは。おるん。た。おるん
 このころは。おるん。た。おるん

そむく口は黨乃美人と云。師乃君人各層之、
らん。ちたむらけ或よあひひる。manawangin

まはるに事一むらむら

平 月日付中あひあひあひの日

英徳國系各人井車觀音

しる

手紙の巻あひ附巻終

婿 さいふも 舞 さいふも ちたむらけ
結 ち 水 へ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
阿 ね と ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
そ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
あ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
あ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ふんすよーあまのこもあまのこ
ふんすよーあまのこもあまのこ
ふんすよーあまのこもあまのこ

藤系彦麻呂



ふんすよーあまのこもあまのこ
ふんすよーあまのこもあまのこ
ふんすよーあまのこもあまのこ
ふんすよーあまのこもあまのこ
ふんすよーあまのこもあまのこ
ふんすよーあまのこもあまのこ
ふんすよーあまのこもあまのこ
ふんすよーあまのこもあまのこ
ふんすよーあまのこもあまのこ
ふんすよーあまのこもあまのこ

Main body of handwritten text on the right page, consisting of several lines of cursive script.

Main body of handwritten text on the left page, consisting of several lines of cursive script.

Handwritten text in a cursive script, possibly a form of shorthand or a specific dialect, written vertically within a rectangular border.

大石 43

Handwritten text at the bottom left of the page, appearing to be a signature or a date.

